



メッセージの聞き取り設定の変更

- [25 ページの「メッセージの聞き取り設定について」](#)
- [26 ページの「メッセージ確認時の接続案内」](#)
- [27 ページの「メッセージ再生音量の変更」](#)
- [28 ページの「メッセージ再生スピードの変更」](#)
- [29 ページの「メッセージの再生順序の変更」](#)
- [31 ページの「メッセージの前後に Cisco Unity Connection が再生する情報の変更」](#)
- [32 ページの「電話切断時の Connection によるメッセージ処理方法の変更」](#)
- [33 ページの「Connection によるメッセージの削除確認を行うかどうかの変更」](#)

メッセージの聞き取り設定について

メッセージの聞き取り設定では、電話でメッセージを確認したときに何が再生されるかを制御します。メッセージの聞き取り設定を電話メニュー設定と組み合わせて使用すれば、Cisco Unity Connection カンバセーションのさまざまな機能をカスタマイズできます。

メッセージ確認時の接続案内

電話でログオンすると、Cisco Unity Connection は録音した名前を再生し、新しいメッセージおよび開封済みメッセージの数をアナウンスします。メッセージの数に続いて、Connection はメインメニューを再生します。

新しいメッセージまたは古いメッセージのどちらかを再生するように選択すると、Connection により、Cisco Unity Assistant Web ツールで指定した順序でメッセージが再生されます（まず、メッセージタイプおよび緊急性の順で、次にメッセージの送信時刻の順になります）。また、インプットスタイルとして電話のキーパッドを使用している場合（[タッチトーンキーのみ] オプション）、メッセージタイプメニューが使用可能になっているときは、聞きたいメッセージのタイプを選択できます。

メッセージと送信者に関する情報は、メッセージを残したのが別のユーザか、身元不明発信者かによって異なります。

Connection ユーザ	メッセージ番号、タイムスタンプ、およびメッセージを残したユーザの録音した名前または内線番号（あるいはその両方）が再生されます。
身元不明発信者	メッセージ番号およびタイムスタンプが再生されます。 発信者の電話番号が使用可能で、再生するように設定されている場合は、発信者の電話番号も再生されます。

メッセージの再生前後に、メッセージとメッセージ送信者に関して Connection が再生する情報を指定できます。

メッセージ再生音量の変更

この項では、2つの手順を示しています。適切な手順を実行して、電話またはコンピュータのスピーカでメッセージ再生音量を変更してください。

**注**

次の手順で設定した音量は、Cisco Unity Connection のガイダンス、名前の録音、ユーザ グリーティングの音量には反映されません。

電話で聞くすべてのメッセージの再生音量を変更するには

- ステップ 1** Cisco Unity Assistant で、[設定] メニューの [メッセージの聞き取り] をクリックします。
- ステップ 2** [メッセージの聞き取り設定] ページの [メッセージ音量] リストで、メッセージの再生に使用するレベルをクリックします。
- ステップ 3** ページの下までスクロールし、[保存] をクリックします。

コンピュータのスピーカで聞くすべてのメッセージの再生音量を調節するには

- ステップ 1** Cisco Unity Assistant で、Media Master を含む任意のページに移動します（たとえば、[設定] メニューの [個人] をクリックし、[名前の録音] フィールドの Media Master コントロール バーを使用します）。
- ステップ 2** 必要に応じて、Media Master の [ボリューム] スライダをドラッグして再生音量を調節します。

メッセージ再生スピードの変更

この項では、2つの手順を示しています。適切な手順を実行して、電話またはコンピュータのスピーカで個別のメッセージ、あるいはすべてのメッセージの再生スピードを変更してください。



注

次の手順で設定したスピードは、Cisco Unity Connection カンパセッション、名前の録音、ユーザ グリーティングのスピードには反映されません。

電話で聞くすべてのメッセージの再生スピードを変更するには

- ステップ 1** Cisco Unity Assistant で、[設定] メニューの [メッセージの聞き取り] をクリックします。
- ステップ 2** [メッセージの聞き取り設定] ページの [メッセージ再生速度] リストで、メッセージの再生に使用するレベルをクリックします。
- ステップ 3** ページの下までスクロールし、[保存] をクリックします。

コンピュータのスピーカで聞くすべてのメッセージの再生スピードを調節するには

- ステップ 1** Cisco Unity Assistant で、Media Master を含む任意のページに移動します（たとえば、[設定] メニューの [個人] をクリックし、[名前の録音] フィールドの Media Master コントロール バーを使用します）。
- ステップ 2** 必要に応じて、Media Master の [スピード] スライダーをドラッグして再生速度を調節します。
- ステップ 3** [再生] をクリックして、コンピュータのスピーカで聞くすべてのメッセージのスピード設定を保存します。

メッセージの再生順序の変更

新しいメッセージ、開封済みメッセージ、および削除されたメッセージの再生順序は、カスタマイズ可能です。新しいメッセージおよび開封済みメッセージの場合、再生設定を使用して、メッセージをメッセージタイプ（たとえば、ボイス メッセージまたは電子メール メッセージ）および緊急性の順に並べ替えることができます。たとえば、緊急ボイス メッセージに続いて緊急ファックスが再生され、次に通常のボイス メッセージが再生されるように、Cisco Unity Connection を設定できます。

デフォルトでは、新しいメッセージおよび開封済みメッセージは、タイプ別に次の順序で並べ替えられます。

- 緊急ボイス メッセージ
- 通常のボイス メッセージ
- 緊急ファックス
- 通常のファックス
- 緊急電子メール
- 通常の電子メール
- 受信確認と通知

受信確認を除き、各メッセージ タイプの緊急メッセージが先に再生されるように、メッセージが並べ替えられます（受信確認は送信時刻順でのみ並べ替えられます）。

メッセージ タイプごとに、メッセージが送信時刻順に並べ替えられます。その結果、最も新しいメッセージか最も古いメッセージのどちらかが先に再生されます。削除されたメッセージは、タイプ別には並べ替えられないため、最も新しいメッセージと最も古いメッセージのどちらかを先に再生するかだけを指定できます。

表 4 は、新しいメッセージ、開封済みメッセージ、および削除されたメッセージのデフォルトの順序を、メッセージタイプに関係なく示しています。

表 4 **メッセージの再生順序**

メッセージの状態	デフォルトの順序
新規	最も新しいメッセージから
開封済み	最も古いメッセージから
削除済み	最も古いメッセージから

表 5 は、メッセージの再生順序を具体的に示しています。次の例では、木曜の午後にメッセージを聞いたときに Connection で再生されるメッセージの順序を示しています（デフォルトの順序設定を使用した場合）。

表 5 メッセージの再生順序の例

新しいメッセージ	開封済みメッセージ	削除されたメッセージ ¹
1. 火曜日の午後 2:13 に送信された緊急ボイス メッセージ	1. 火曜日の午前 10:30 に送信された緊急ボイス メッセージ	1. 火曜日の午前 10:30 に送信された緊急ボイス メッセージ
2. 火曜日の午前 10:30 に送信された緊急ボイス メッセージ	2. 火曜日の午後 2:13 に送信された緊急ボイス メッセージ	2. 火曜日の午後 2:13 に送信された緊急ボイス メッセージ
3. 木曜日の午前 8:30 に送信された通常のボイス メッセージ	3. 水曜日の正午に送信された通常のボイス メッセージ	3. 水曜日の正午に送信された通常のボイス メッセージ
4. 水曜日の正午に送信された通常のボイス メッセージ	4. 木曜日の午前 8:30 に送信された通常のボイス メッセージ	4. 水曜日の午後 4:10 に送信された緊急電子メール メッセージ
5. 水曜日の午後 4:10 に送信された緊急電子メール メッセージ	5. 水曜日の午後 4:10 に送信された緊急電子メール メッセージ	5. 木曜日の午前 8:30 に送信された通常のボイス メッセージ

1. 削除されたメッセージは、電話で再生できない場合があります。Connection 管理者に問い合わせてください。

メッセージの再生順序を変更するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Assistant で、[設定] メニューの [メッセージの聞き取り] をクリックします。
- ステップ 2** [メッセージの聞き取り] ページの [新しいメッセージの再生順序] セクションで、[上へ移動] ボタンおよび [下へ移動] ボタンを使用して、メッセージ タイプを再生する順序に並べ替えます。
- ステップ 3** [時間の順序] リストで、[最も新しいメッセージ] または [最も古いメッセージ] をクリックし、すべての新しいメッセージの再生順序を指定します (特定のメッセージ タイプの再生はできないことに注意してください)。
- ステップ 4** [開封済みメッセージ再生順序] セクションで、[上へ移動] ボタンおよび [下へ移動] ボタンを使用して、メッセージ タイプを再生する順序に並べ替えます。
- ステップ 5** [時間の順序] リストで、[最も新しいメッセージ] または [最も古いメッセージ] をクリックし、すべての開封済みメッセージの再生順序を指定します。
- ステップ 6** [削除したメッセージ再生順序] セクションで、[最も新しいメッセージ] または [最も古いメッセージ] をクリックし、すべての削除済みメッセージの再生順序を指定します。
- ステップ 7** ページの下までスクロールし、[保存] をクリックします。
-

メッセージの前後に Cisco Unity Connection が再生する情報の変更

メッセージプロパティは、メッセージの前後に Cisco Unity Connection で再生できるメッセージに関する情報です。

デフォルトでは、Connection は次のメッセージプロパティを再生します。

送信者情報	利用可能な場合は、メッセージの再生前に、Connection によって、メッセージ送信者の名前が再生されます。身元不明発信者の電話番号（利用可能な場合）、またはメッセージを送信したユーザの内線番号が再生される場合もあります。
メッセージ番号	<p>メッセージの再生前に、Connection によって、メッセージの通し番号が案内されます（たとえば、「1 番目のボイス メッセージです ... 2 番目のボイス メッセージです ...」）。</p> <p> ヒント Cisco Unity Assistant のメッセージ カウントをオフにすることもできますが、メッセージ番号がわかると、メッセージ番号を入力してメッセージをスキップできるので便利です。</p>
メッセージ送信時間	これはタイム スタンプです。Connection によって、メッセージが送信された曜日、日付、時刻が案内されます。Connection によって、メッセージの再生前および再生後、またはそのどちらかにこの情報が再生されるよう指定できます。

Connection が再生する情報を、これらのメッセージプロパティのすべて、またはいくつかを組み合わせ指定できます。何も再生しないように指定することもできます。

メッセージの再生後にメッセージプロパティを再生するように選択した場合は、Connection によって次のプロパティが再生されます。

メッセージタイプ	Connection によって、メッセージが新規、開封済み、および削除済みのいずれであるかが再生されます。また、必要に応じて、メッセージがプライベートであるかどうか、または緊急であるかどうかも再生されます。
送信者情報	利用可能な場合は、Connection によって、メッセージ送信者の録音名が再生されます。身元不明発信者の電話番号（利用可能な場合）、またはメッセージを送信したユーザの内線番号が再生される場合もあります。
メッセージ送信時間	これはタイム スタンプです。Connection によって、メッセージが送信された曜日、日付、時刻が案内されます。

受信確認については、Connection が再生する情報は若干異なります。Connection が受信確認のタイム スタンプおよび理由を、受信者リストの前に再生するか、後に再生するかは、その受信確認に関連付けられた受信者の数によります。

1 人の受信者	タイム スタンプおよび理由は、受信者名の後に再生されます。
複数の受信者	タイム スタンプおよび理由は、受信者リストの前に再生されます。

メッセージの前後に Cisco Unity Connection が再生する情報を変更するには

- ステップ 1** Cisco Unity Assistant で、[設定] メニューの [メッセージの聞き取り] をクリックします。
- ステップ 2** [メッセージの聞き取り] ページで、下にスクロールして [各メッセージの再生前にアナウンス] セクションに移動します。各メッセージの前に Connection がどのような情報を再生するかを指定するには、次のチェックボックスをオンまたはオフにします。
- [送信者情報]
 - [メッセージ番号]
 - [メッセージ送信時間]
- ステップ 3** 各メッセージの再生後に Connection がメッセージのタイム スタンプを再生するかどうかを指定するには、[各メッセージの再生後にアナウンス] セクションで、[メッセージ送信時間] チェックボックスをオンまたはオフにします。
- ステップ 4** [保存] をクリックします。

電話切断時の Connection によるメッセージ処理方法の変更

メッセージの再生中に電話を切断した場合（または切断された場合）、メッセージは新しいメッセージまたは開封済みメッセージとして Cisco Unity Connection に保持されます。

メッセージ本文にアクセスしてメッセージの処理方法を指定する前に電話を切断した場合（または切断された場合）の処理として、メッセージに新規マークを付けて残す、または保存済みマークを付けて残すのいずれかを選択できます。

電話切断時の Connection によるメッセージ処理方法を変更するには

- ステップ 1** Cisco Unity Assistant で、[設定] メニューの [メッセージの聞き取り] をクリックします。
- ステップ 2** [メッセージの聞き取り] ページの [電話が切断されたとき、または自分が切断したとき] セクションで、適切なオプションを選択します。

メッセージの保存	メッセージに保存済みマークを付けます。
メッセージに新規マークを付ける	メッセージは現行の状態のまま（新規、開封済み、または削除済みとして）保持されます。

- ステップ 3** [保存] をクリックします。

Connection によるメッセージの削除確認を行うかどうかの変更

新しいメッセージまたは開封済みメッセージを電話で削除するときに、Cisco Unity Connection で確認が行われるようにするかどうかを選択できます。

メッセージの削除確認を行うかどうかを変更するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Assistant で、[設定] メニューの [メッセージの聞き取り] をクリックします。
- ステップ 2** Connection による確認を有効にするには、[メッセージの聞き取り] ページの [メッセージを削除するとき] セクションで、[新規および保存済みメッセージの削除を確認する] チェックボックスをオンにします。

Connection による確認が不要な場合は、このチェックボックスをオフにします。

- ステップ 3** [保存] をクリックします。
-

■ Connection によるメッセージの削除確認を行うかどうかの変更